

第2部

第1部のファシリテーターは、みずとみどり研究会の佐山公一事務局長



「川がきれいになるとさらに人が集まってきて、よりきれいになります」と語るNPO法人 江川エコフレンドの瀬尾規子理事長

第2部は日本三大河川シンポジウム。：の前に、会場に「吉野川の《川》の音」が流れました。これは、川の聴診器（水中マイク）で録音した吉野川の流水の音を用い、環境音楽家・小久保隆さんによって作曲されたもの。サミットでボルテージが上がった会場に、清涼な音色が響き、しばし耳を傾けました。

まずは長男・利根川から。NPO法人 利根川流域交流会・斉藤隆さんが、茨城県・小貝川沿いでフラワーカナル（花の運河）づくりによるごみ削減の取り組みを紹介しました。春はポピー、

秋はコスモスが咲き誇るカナルは、花植え、雑草刈り、河川清掃など地域住民の地道な活動により支えられています。継続し、次に繋げていくには、行政の補助や後継者の育成が不可欠です。ポニーに乗って河川沿いをパトロールしたり、ボートでごみを集めたりという楽しい活動を通して「ジュニアレンジャー」を育成しようという試みには、兄弟達も興味津々でした。

続いて、次男・筑後川。流域4県の産官学民が連携して、環境の向上や文化・産業の振興を進めていこうと設立されたNPO法人 筑後川流域連携倶楽部も、早や20年を迎えました。筑後川フェスティバル、筑後川まるごと博物館など、年間通じてさまざまな活動を行っています。近年力を入れているのが子ども達への環境教育。「捨てないでキャンペーン」と銘打って、親子でごみの調査やポスター作りなどに取り組んでもらいます。「子ども達に美しい川を守り継いでいくために、若い人達が中心となって考え、活動していつてもらうことが大事」とNPO法人 筑後川流域連携倶楽部・駄田井正理事長。



シンポジウムのファシリテーターを務めた徳島河川国道事務所の宮藤秀之所長

「私が一番年いっとる。ごみ拾い歴も一番古いです」と、笑いながら話し出したのは吉野川交流推進会議・中村英雄副会長。認定NPO法人 新町川を守る会で30年以上、川や道路の清掃・花植え、遊覧船の運航などを行ってきました。「川掃除を好きになつてもらうには遊びが必要。楽しくなるようなイベントや工夫をしなければ長く続けられない」と中村さん。そういえば、同会の吉野川のアドプト清掃後はうどんが定番でしたね。



NPO法人
利根川流域交流会
斉藤 隆さん



NPO法人
筑後川流域連携倶楽部
駄田井 正理事長



吉野川交流推進会議
中村 英雄副会長

「ごみを捨てない、ごみを拾うという『文化』が根付くには、3世代を経て100年かかると思います。私達でやっと30年ですからまだまだ（笑）。河川清掃やイベントを通じて、どんな社会を作っていくか、という夢を持つことが大事。常に変化を求め、夢をもって活動していこう」と締めくくりました。

初めての共同開催でしたが、環境や社会をよくしていこうと活動する仲間同士、大いに語り、学び、刺激を受け、有意義なひとときとなりました。三兄弟に新しく兄弟や親戚が増えたような気分です。

徳島県から全国に広がっていったアドプト・プログラム。河川関係者にPRする絶好の機会と、新しくアドプトの紹介パネルを作成しました



三大河川の発表に会場から賛同の意見や質問が相次ぎました